

5. 福祉専門紙「シルバー新報」記事

2002年12月13日(金) 環境新聞社発行

シルバー新報

(第3種郵便物認可)

e-ケアタウンプロジェクト
来月から実証実験開始

慶大、藤沢市 I Tで在宅を支援
など4者

慶應義塾大学(SFC研究
所、0466・49・3
618)と藤沢市、藤沢市
保健医療財団、NTT東白

本の四者は共同で、看護や介護の充実したまちづくりをIT技術を活用して実現する「e-ケアタウンプロジェクト」を、来年から開始する。情報通信機器・技術により、ケアが必要な人とその家族、医師・看護師、介護者などの相互コミュニケーションを深め、要介護者を含めた地域住民のQOL向上を目指す。

来月から同大学を中心
に、インターネットによる遠隔トレーニングやパソコンによる高齢者介護など六つのプログラムについて、市民モニターの協力を得て実証実験を行う。

同プロジェクトは、藤沢市が今年、総務省が公募した「e-プロジェクト」介護福祉分野の実証実験地域に選ばれたのを機に立ち上げられた。市内全域に高速通信網が整備された同市ならではの取り組みだ。

「最新のIT技術を介護や福祉の分野に有効活用して、市民の在宅での生活を支援する」(山本雄雄藤沢市長)ことを目的に、同市と慶應義塾大学が共同で立案。保健医療財団とNTTを加えた四者で実証プロジェクト(運営委員長は吉野肇一慶應義塾大学看護医療学部長・教授)を結成して運営や実証実験の実施を行う。

一月からの実証実験のプログラムは①e-介護(パソコンなどによる在宅ケア)②e-ヘルスアップ(インターネットによる遠隔運動指導)③e-ファミリーケア(高齢者の家族による外出先からの安否確

認)④e-専門家スキルアップ講座(ヘルパーの技能向上)⑤e-市民健康講座⑥e-ケア情報セキュリティ(在宅ケアにおける個人情報保護とスタッフ間での情報共有の両立)の六種類。

情報保護とスタッフ間での情報共有の両立)の六種類。

実証実験は、同大学の看護医療学部が、環境情報学部など他学部と協力して実施し、パソコンやプログラムソフトなどは期間中モニターとなる市民に貸し出して行う予定だ。